

VII 研究発表業績

1 学会等研究発表

年月日	学会等の名称 (開催地)	演 題	発表者
令和4年 11月25日	令和4年度全国環境 研協議会関東甲信静 支部水質専門部会	霞ヶ浦流入河川における窒素負荷の長期的 変化	主任 大内 孝雄 (Web 口頭)
11月29日	第59回環境工学研究 フォーラム	牛久沼における流域都市化の影響と近年の 水質変動要因	主任研究員 長濱 祐美 (口頭)
令和5年 2月21日	令和4年度全国環境 研協議会関東甲信静 支部大気専門部会	茨城県における有害大気汚染物質(六価ク ロム)の分析について	主任研究員 豊岡 久美子 (書面)
〃	〃	茨城県における光化学オキシダントの状況 について	主任 小田 直哉 (書面)
3月15日 ～17日	第57回日本水環境学 会年会	底層DOの検討のための霞ヶ浦水質予測モ デルの利用可能性	主任研究員 長濱 祐美 (口頭)
〃	〃	霞ヶ浦流入河川における窒素負荷の長期的 変化	主任 大内 孝雄 (口頭)
〃	〃	汽水域沼沼における水質の特徴	主任 齋藤 祐樹 (口頭)
〃	〃	茨城県内3地区のハス田群の環境負荷調査	主任研究員 佐野 健人 (ポスター)
〃	〃	有機ヒ素の分析法の検討	主任 吉田 彩美 (ポスター)

2 誌上发表

題 名	執 筆 者	掲 載 誌
牛久沼における流域都市化の影響と 近年の水質変動要因*	長濱 祐美、木村 夏紀、湯 澤 美由紀、福島 武彦	土木学会論文集G(環 境)、78、7、Ⅲ_253- Ⅲ_262(2022)
自動昇降装置を用いた夏季における 北浦の水温成層と貧酸素水塊の形 成・消失およびリン溶出過程の検討*	北村 立実、鮎川 和泰、増 永 英治、小室 俊輔、大内 孝雄、湯澤 美由紀、浅岡 大輝、三上 育英、清家	水環境学会誌、45、 3、135-143(2022)

題 名	執 筆 者	掲 載 誌
	泰、福島 武彦	
Identifying the true drivers of abrupt changes in ecosystem state with a focus on time lags: Extreme precipitation can determine water quality in shallow lakes*	Ayato Kohzu, Shin-ichiro S. Matsuzaki, Shunsuke Komuro, Kazuhiro Komatsu, Noriko Takamura, Megumi Nakagawa, Akio Imai, Takehiko Fukushima	Science of the Total Environment 881 (2023) DOI: 10.1016/j.scitotenv.2023.163097
Assessing the impact of watershed characteristics and management on nutrient concentrations in tropical rivers using a machine learning method*	Tetsuro Kikuchi, Toshihiko Anzai, Takao Ouchi, Ken Okamoto, Yoshifumi Terajima	Environmental Pollution, 316 (2023) 120599
Will Planktothrix spp. become dominant again in Lake Kasumigaura? Analysis of phytoplankton community dynamics*	Yuki Ishikawa-Ishiwata, Yumi Nagahama, Tatsumi Kitamura, Miyuki Yuzawa	Hydrobiologia, 850(8), 1-19 (2023)

* 査読付き論文